

伊勢湾には700キロ弱の海岸線がある 石原義剛

伊勢湾にどこからか流れ込んだゴミが、集中して漂着する答志島がある。  
島の西側

に位置する桃取の漁民は20年以上、暴風雨や豪雨のたび、漁場や漁港を埋め尽くす倒木灌木枝葉や枯れアシ、発泡スチロール群の惨状を訴えても、早急な対応はなく、漁を休み何日も費やして、船上から拾い上げ陸に運び、撤去し焼却する空しい作業を繰り返してきた。今も桃取へ押し寄せる漂着ゴミの量は年間3千トン、伊勢湾漂着ゴミの4分の1を超える。

桃取に奈佐の浜というわずか340mほどの小さな砂浜がある。今年6月9日ここに、300人を超えるボランティアがやってきた。桃取の窮状を聞いて、海岸に打ち上げられた漂着ゴミを拾い集めるためである。愛知、岐阜、三重の都市の若者たちの呼びかけで集まったのは休日だったこともあり、若者や子ども連れも多かった。炎天下で皆黙々と汗を流した。小さな浜で拾われたゴミは2・9トンも有った。以降も少人数ながらボランティアがつづき、9月8日にはまた300人が来てくれ2・6トンの漂着ゴミを回収した。皆が三ヶ月前に掃除した海岸は、その後の清掃にかかわらず大量のゴミが堆積していたのだ。

このゴミは波と風によって海岸へ打ち上げられた海底堆積ゴミが大半だ。伊勢湾の海底にどれほどの量が残存しているかも不明だ。陸地では目に付くが、海底のゴミは未だに実態が判らない。操業する底引き網漁船に毎日、魚介類に交じって揚がる大量のゴミ、そのほとんどはペットボトル、トレー、ビニール袋。ヘドロに絡まったそんなゴミが海底を覆っている。しかし、陸地にすむ多くの人は海のこの現実を知らない。